

**活動名 (教科)** 森へ ～星野道夫の世界を感じて読もう～ (国語)

**対象学年** 6年

**実施期間** 7月上旬

**実践者 (所属)** 川窪 睦子 (東柿生小)

**1. 指導にあたって**

(1) この単元の特徴や指導の難しさ

- 初めて触れる「紀行文」であり、一見淡々とした文章であるため、じっくり読み進めるのが難しい子どもがいる。
- アラスカの大自然の情景を想像し、表現の面白さに気づいて、読み深めることができるようにしたい。

(2) それを克服するための ICT 機器やメディアの活用 (利用の意図と工夫)

- 写真家である筆者の写真を活用し、教材提示装置で大きく見せ、身近にはない大自然を想像しやすいようにする。
- 面白い表現に気づいた子、読みの深まった子の教科書への書き込みやワークシートを教材提示装置で見せ、参考にできるようにする。

**2. 単元の主な目標**

- すぐれた情景描写や説明を読み、筆者の体の動き・心の動きに寄り添って未知の自然の物語を味わう。

**3. 指導計画の概要 (6 時間)**

時間	学習内容	児童の活動 (利用メディア)	指導の留意点
1	・筆者・星野道夫氏の紹介をし、興味関心を高める。	・『森へ』の全文を読み、初発の感想を書く。	・観点を絞って感想を書くように指導する。
2 ～ 4	・本文の場面の中にある効果的な表現を書き出し、筆者の心の動きをとらえる。	・写真を見たり、教科書に書き込みをしたりしながら、いろいろな感覚を働かせて、どんな様子なのか想像して読む。 (教材提示装置)	・筆者の感覚的な表現を見つけて、そのときの情景や心の動きを教科書に書きこむように声をかける。 ・子どもたちそれぞれの読みを尊重しながら、擬人法などの効果的な表現の工夫に気づくことができるようにする。
5	・グループで話し合い、お互いの考えを深めあう。	・挿絵の写真や文中の表現をもとに感じたことを話し合い、自分の考えを深める。	・それぞれの感じたことや想像したことなど、意見を交換しあい、自分とは違う読みのあることに気付かせるようにする。 ・自分自身の感動を中心に最終的な感想を書くように助言する。
6	・自分の読みの深まりを感想にまとめる。		

**4. 取り組み後の子ども達の変容や成果**

筆者・星野道夫氏の迫力ある写真を大きな画面で見せることができたため、自分たちの身近にはない、しかし確実に地球の上にある大自然への思いをもたせ、興味をもって文章を読み深めることができた。淡々とした表現の中にある筆者の思いに近づこうと、じっくり読み進めている姿が見られた。